

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第2回高松市創造都市推進懇談会（U40／第4期）
開催日時	平成31年2月28日（木） 18時30分～20時40分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議 題	（1）第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について （2）アイデアシートの発表
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	徳倉会長、穴吹副会長、中村かおり副会長、大石委員、大崎委員、熊野委員、桑村委員、笹川委員、田中委員、瑞田委員、中村香菜子委員、眞鍋委員、宮井委員、若林委員、渡邊委員
市職員	小瀧、三谷、長谷川、森、上原、武田、田村、杉原
事務局	長井参事、西岡課長、佐野補佐、三浦係長、松下
傍聴者	0人 （定員 5人）
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

1 開会

【会長】

みなさん、こんばんは。2回目ですが、新メンバーの方は本格的な第1回目ということで、私の気分は今日の空ぐらい曇っています。1回目が大体重いのです。たくさんアイデアをいただいています。ここから集約していく作業ということで、皆さんから頂いたアイデアをバサバサ切っていくという、ものすごい嫌われる役を僕がやっていく予定です。まずは、議題どおり、第2次高松市創造都市推進ビジョンの取組について具体的に御説明頂いて、そこから諸々質疑応答をしたのちに、議題の議論に移っていきます。ですので、よろしく願いいたします。では、事務局からお願いします。

2 議題（1）第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について （事務局から配付について説明）

【会長】

ありがとうございました。ここまでで御質問はありますでしょうか。

審議経過及び審議結果

なければ、私から1点。最後の東京2020オリンピック・パラリンピックだが、他課との連携ということで、たくさんの課の記載がありますが、イニシアチブはどこの課がとられるのですか。

【事務局】

本事業の主管課はスポーツ振興課になります。

【会長】

なるほど、スポーツ振興課さんが担って多くの課と一緒にやるということですね。皆さんのほうで何かございますか。もしまたあれば、適宜、質問の時に出示していただければと思います。

3 議題（2）アイデアシートの発表

【会長】

では、早速ですが、議題（2）に進みます。今日のメインになりますが、アイデアシートまとめというのを基に進めさせていただきます。民間の委員のみなさんに事前にシートを出していただきまして、ありがとうございます。今日は、全員のアイデアをテーマ順に、出された委員の方々にそれぞれ少し御説明をしていただきたいと思います。

【委員】

3つアイデアを出ささせていただきました。アイデア31に書いている一つ目が、「ミュージッククルーズ KIDS」というアイデアです。今回テーマのひとつが「こども」というのが入っていましたので、子どもというところを中心に考えたところで、香川県がやっている瀬戸内サマーナイトフェスティバルという大人向けのイベントなんです。これの子供版みたいなイメージです。私の2歳の娘も、「0才からのコンサート」というのがすごい好きで、楽しんでいるので、それと島の景色を楽しめるような体験と一緒にした形で、なおかつ地元の食をお弁当として食べられるような体験を混ぜ合わせたイベントを企画できないかなと思いました。全体として子どものイベントというのは、高松市の中で、もうちょっとあってもいいのかなと自分の中であったので、こういった企画を一つプラスさせていただきました。

次のアイデアテーマは、32番です。これは昨年私がリーダーを務めた情報発信事業の、up TAKのモニュメントを作ったということで、やっぱりそこを生かしたいなということがあります。どちらかというと、このワークショップというのは、これ単体というよりも、皆さんのテーマの中の何かと組み合わせ、できないかなというイメージで、モニュメントを真っ白で作っていたところの意図

としては、マスキングテープでデコしたり、七夕の短冊を飾ったりだとか、何かモニュメントを生かしたイベントを企画したいと思っていたので、その活用をしたいと思います。意図としては情報発信を広げて、高松市の魅力を伝えるというところに、繋がっていただけたらと思っています。

3つ目は情報発信第2弾ということで、昨年、市民の方が外国人向け観光サイトからダウンロードできるハッシュタグカードというものを作ったのですが、今回は第2弾ということで、例えばテーマとして会社員とか、県内市外や県外、海外に出張する会社員が使えるような名刺のテンプレートやプレゼン資料の表紙、SNS用のヘッダーの画像とかをこのメンバーで作って、デザインを自由にダウンロードできるという仕組みを作れないかなというもので、3つアイデアを出させていただきました。

【委員】

まず1つ目は、「シルバーハートママハート」という親しみやすい名前を付けてみたのですが、要は、シルバーという元気な60代ぐらいの乳幼児ぐらいの孫がいるおじいちゃんおばあちゃんたちのことです。若かったら50代もいるかもしれないですけども、60代以降の在宅でいるおじいちゃん、おばあちゃん元気な人と在宅で育休などをしているお母さんたちというのが、地域の中で比較的、時間がある人たちだと思っています。その人たちをくっつけることによって、地域の中でいろんな助け合いのつながりを作って、助け合えるようなきっかけづくりになるイベントが出来たらと思っています。どんなことを一緒にやっていったら楽しいかなと考えていて、しっぽくうどんを作ったり、例えば、奉公さんなど、高松の伝統工芸に触れるものだったり、盆栽だったり、私が素人でも思いつく感じで、高松らしい栗林公園、玉藻公園で遠足だったり、ネタとしては何をしても楽しいと思っています。普段出会うことがない、自分の孫は遠くにいる、自分のおじいちゃん、おばあちゃん、実家は遠いという人たちをつなげることによって、色々なことにつながっていく。移住してきた若い人、歳がいつている方のような移住してきた方もいるので、そういった人たちが香川の伝統的なものに触れる機会になるという感じで、考えたら子供、工芸、食の全部に該当したなと思って、出来たら楽しいかなと思ったアイデアです。

次は、26番です。こちら「楽しみママ高松」というざっくりばらんな名前にしてみたのですが、今、女性活躍が推進されて、働き方改革や、女性の育児と仕事のバランスみたいな勉強会って結構たくさんあるのですが、家で子育てしている主婦という立場はすごく低い立場にあると思っています。保育所は待機児童があるというのはニュースでバンバン言われていますが、高松市立幼稚園で定員割れしているところがものすごくたくさんあって、5年ぐらい前までは抽選引かなくちゃいけない幼稚園がたくさんあったのに、今は10人以下というような現状もあり、施設的にもすごくもったいないと思っています。というのは、仕事を女性がするのはとてもいいことなんですけど、男性もですけど全員が仕事をしてしまうと、地域で活動や暮らす人がほとんど減って行って、町から人が昼間は消えるのですよね。地域で在宅して子育てしたり、家事したり、地域の活動をしたりするということも、経済的な仕事をしていることと等しいぐらいとても大切なことで、楽しい人生を築けるし、重要なことなんだよ、みたいなことをできるワークショップや講演会をしたら面白いかなと思いました。アイデアとして、

地域で活動してきた人や、PTAで活躍している人、子育て支援団体運営者、高松友の会とか、主婦の会のスキルアップのできる人たちとか、みんなでどんな人がいるのかと出し合う中で、その人一人一人が主人公になって、主語となるような地域づくりが出来るかなと思います。それによって待機児童が減ったり、地域が活性化するかなと思いました。

次が27番で、こちらは既存のプログラムで、よく26番と似ているのですが、家で子育てをすることは結構ストレスが高くて、今、とにかく仕事をしようという世の中なので、どんどん仕事のほうに逃げる人、逃げるという言葉が適切かどうかかわからないが、すぐ子育てをあきらめて預けてしまう人も多いと思っています。育休の間もストレスが少なく過ごせるようにというプログラムがあるのですが、こちらはすごくお金がなくてできないので、市の財源など協力していただいて、これが出来たら地域で、移っていくことが楽しめる人が増えるのではないかと考えて考えました。以上3つです。

【委員】

私からは2つアイデアを考えて提示しております。

1つ目は「工芸×島の食」というテーマです。昨年、工芸ウィークをやっていて、やはり工芸品は敷居が高く、なかなか手の届かないイメージということをして市民の方も持たれていると思ったので、少しでも敷居を下げるため、工芸品を使った、器とか、お箸とか、カップとかを用いて、それらを使って食事を楽しんでもらいたいと考えています。なおかつ、今年は瀬戸内国際芸術祭もあるので、島と高松市をつなげるような島の食材を使って、どなたか料理人に入ってもらって、何か、工芸と島の食がつながるようなイベントが出来ないかと考えて提案をしております。

もう一つが、これも工芸をこういったプロジェクトの一つになってはいるのですが、伝統的工芸品の印刷物づくりということで、やっぱり印刷物が結構固いといえますか、そういった印刷物が伝統工芸品の場合が多いのですが、少しおしゃれなデザインで印刷物が作れないかと考えて、提案をしております。すごい昔に県の事業だったのですけれども、アトリエ本というのを昔作ったことがありまして、それは若手の作家さん、アーティストさんにアトリエまで訪問して取材をして、カメラマンも専門のカメラマンさんを入れて、どういうアトリエで、どういう作品を作っているかというインタビューをしながら印刷物を作ったということがあったので、そういった印刷物が作れたら、もう少し身近に感じられるかなと考える提案をしました。以上です。

【委員】

私は3つアイデアを出させてもらっているのですが、ちょっと分野が飛んでいるのでまずここにあるものを一つ紹介します。3つ出している中で共通するのは私の分野である外国人の方へ出来たらたらいいなということで、外国をテーマにさせていただきます。

1つ目は、高松の食の多様性を発信ということで、多様性というのは具体的にどういったことかということ、世界では、日本でもそうですが、食の制限がある方が多くいます。アレルギーは結構日本の方にも浸透しているかなと思いますが、イスラム教の方のハラール、あとベジタリアン、ヴィーガンなどですね。せっかく

高松に来ていただいて、おいしいものを食べたいと、外国の方みんな思っているのですが、あまりにも情報が少なすぎるために、食べられずに帰ってしまうというのが、在住の方でもそうですし、観光客の方でもそういう現状があります。そういったところの、まずは情報発信ですね。この店ではどういったものが食べられるのかという情報を発信、パンフレットであったり、インターネットで発信していくとともに、高松で営業されている方々も、じゃあこの対応をするのはどないしたらいいのかというのを、どういうふうな基準があるのだということがわからないというお声をたくさんいただくので、そういう情報の共有であったり、セミナーをしていくことによって高松の食をもっとたくさんの方々にアピールできると思います。

では次に、2番ですが、「ことばのバリアフリー」ということで、この前パラリンピックのお話でバリアフリーというお話を聞いて、これは使えると思って、ここにバリアフリーを使わせてもらいました。私の場合は言葉ということで、外国の方にとって、日本に来て何が困るかという言葉ということです。日本人の方も、逆に外国の方とコミュニケーションを取るときにどうしようと思われたときに、一番、言葉が困るのかなと思います。特に、今年の4月から入管法が改正になりまして、労働者の外国の方がもう少し幅広く入ってこられるようになっていきます。なので、高松市でも現在でも在住の労働者の方は多いです、もっと多くなるということが予想されます。その中で一緒に生活をしていって、お互いを理解するにはまず言葉だと思っています。その中で、今取り上げられているのが優しい日本語ということで、簡単な事例を説明すると、「召し上がる」という言葉は、難しいですけども「食べる」といえば外国の方は分かります。例えば、「土足禁止」ではなくて、「靴を履かないでください」という風に言うと分かりやすいですね。あと、ピクトグラムというような絵を使って表示すると、どなたでも分かるので、良いのではないかなと。そういったものが高松市の町中に増えることで、外国の方もそうですし、お子さんにも分かりやすいというメリットも出てきます。弱者の方へのバリアフリーということで、こちらを提案させていただきました。

次に4番ですが、「高松市ガムラン楽団結成」ということで、これは遊び心を入れてみました。ガムランとは何ぞやと思われると思うのですが、インドネシアのオーケストラのことです。東洋のオーケストラと言われていて、詳細は「ガムラン インドネシア」をインターネットで検索してください。簡単に言うと、鉄琴がたくさん並んでいて、鉄琴の合奏で演奏をします。指揮者がいないで支配するものがなく、村のコミュニティを形成するときによく使われていると言われていています。楽譜が読めない、特別な装具がなくても、叩くだけで音が出るので、どんな方でも演奏ができるというメリットがあります。これを高松市に、大きい楽器なのですが個人で所有するのではなくて、1台ぼんと置いて、体だけで来て、叩いて楽しんで帰るというワークショップであったり、継続したグループ作りが出来ると思います。

【委員】

14番の「讃岐高松秋季例大祭」についてですが、高松・香川は他の四国3県に比べて、他の四国3県は人を呼べるような大きなお祭りがあるのですが、香川はそんな人を大勢呼べるようなお祭りが無いなと前々から思っていました。調べ

ていたら、香川ってすごい獅子舞が多いようです。みなさん実家だったり、仕事をされている方もいると思いますが、獅子舞のお祭りが多くて、日本一の数を誇ります。日本一大きい獅子舞も三木町にあります。それをどうせなら集約して、まとめて実行して発信することで、伝統的なお祭りなので、縦軸、世代間ですね。おじいちゃんからお子さんまで、ここでコミュニケーションが取れますし、横軸、地域のつながりもここで取れるのではないかと、自治体などに加入していただける機会も得られるのではないかと考えています。

次が、15番の「Farm to table」です。今、子どもたち、大人の方もそうだが、スーパーなどいろんなところですごく簡単に食べ物が手に入る時代で、本当に作っている人たちがどんなことをされているか、知らない人が多いと思います。知っているよという方もいるかもしれませんが、実際、現場どうなっているかと、本当に生産の現場に入ってみると、思っていた以上に大変だったり、こういったところ面白さがあるというのがあると思っています。こういった自然の恵みや厳しさなどを体験しながら、感じてもらって、最後は料理人など自分たちと一緒に料理を作って、食べてもらうことで、自然の恵みの中で生かされていることに気づいてもらえればと思っています。また農家、流通業者、加工業者、料理人など食にかかわる人を一緒に巻き込むことで、また違った新しいアイデアを発信できないかなと思っています。

【副会長】

「高松観光大学」と題していますが、テーマとしては観光業を産業にするという地方創生の本丸の実現を目的とするものです。現在、「地域創生」の名前だけが先行しているという感が否めなく、私も宿泊施設を運営しておりますが、観光で稼ぐ担い手が育っているかと言うとそうでは無いと考えます。「観光」事業者といえども様々なゲストハウスや民泊施設だったり、アクティビティ提供者、ガイド、色んな民間事業者が存在しますが、まだまだ数が少ないです。そして、それぞれがただの競合として連携できずにいる現状があります。

観光産業を成長させたいのならば、地域としてそういう担い手を増やす環境づくりに注力することはどうでしょうか？地域の成功事例の検証、そのノウハウをオープンソースとして共有できれば、今後新たにチャレンジするプレーヤーの事業の質を上げ、参入障壁を下げるができるのではないかと考えていました。

前期の事業報告会を聞いた時、情報を作っていくに「届ける」か、あとは「情報の集約」というのが今後の改善のキーワードでした。また、行政が入ることによって、競合同士が協力できるきっかけになり得るという報告もありました。

例えば、父母ヶ浜の仕掛人はどういったことから始め今に至ったのかとか、インバウンド業界で有名な香川県国際観光推進室の方の持つ情報をを埋もれさすのではなくて、インタビューとか講義形式などで撮影、アーカイブをできないかと考えています。オンライン上にアーカイブすることで、いつでも、誰でも、視聴できる公平な情報提供が実現できます。その一つのツールとして、Facebook ライブというのがあります。

これにより、通常のイベント形式での、その場、その時間に参加できないという機会ロスもなくすることが可能になります。また観光事業者だけでなく、一般の方に対してもこの教材は有効だと考えます。地域の魅力を再発見する機会となり、シビックプライドを育むことも狙えるのではないのでしょうか。

受入環境とは事業者だけでなく、街の人の受け入れ意識も非常に重要な要素です。

この取組は予算節約という観点もあります。会場を借りる必要もないですし、出演する方とライブ中継する設備環境があればいいからです。

ただ、横のつながりを増やすためにも実際に講師や同じ志の仲間と会えるオフ会などのイベントを開催するといったところでは、予算要求をさせて頂きたいと考えています。

【副会長】

2つ出しているのですが、共通のテーマは高松市民と外国人を中心とする観光客との交流と相互理解になります。

1つ目が、タイトルが「指さし観光「案内」ガイド」という風にあるのですが、要は言葉がわからない外国語話せない、英語話せない、中国語も韓国語も話せないような子どもだろうと大人だろうと誰でも、外国人を見たら手助けできるような、そういう案内シートを作るのはどうかなと思っています。我々が海外旅行に行くときに、指差し案内所みたいな冊子があると思いますが、受け入れ側の案内シートもあったらいいのではないかなと思っています。というのは、1年前にうどん屋に入ったときに、韓国人の観光客だったと思うのですが、メニューを指しながら何が何だかわからないみたいな表情をされていて、店員の方が来たのですが、店員の方もなんと声をかけたらいいのかわからなくて、お互いに、まあいいやという感じで終わったのです。それはそれで合意の一つではあるのですが、せつかなので助けたいと思っている高松市民にツールを与えるのはどうかなと思っています。色んなバージョンが作ることができると思いながら、思い付きベースで、街案内、街でさまよっている外国人に指さして案内する用とか、お店の中で声をかけるバージョンとか、あとは、高松市・香川県全体そうですがうどん屋があまりにも複雑なので、そういうので案内できるシートとかあったらいいかなと思いました。

次が24番です。「ここが変だよ讃岐人」ですが、要は、我々は当たり前だと思っているけれども、県外海外も含めてですが他から見ると、変だし不便だしどうにかできないのと思っているところをどんどん街頭に出て、突撃インタビューをして聞いて、それを確かにそうだよなと改善できそうだよなと思うなら、どんどん事業者にシェアして、観光客フレンドリーなそういった街づくりに生かしていただければいいかなと思っています。

【委員】

私から先ほどこちょっと話が出たのですが、高松は基本的に核となる人が集まるお祭りが少ないなと思っています。なので、一つ夏に継続的なイベントとしての夏祭りのような立場のものが少ないかなと思ったときに、今、高松空港は中四国でも週20便以上の国際線を持っているのは、ほとんど高松・広島ぐらいなのですが、そこで、旅行に行っている人は、高松から台湾飛んでいるね、上海飛んでいるね、韓国飛んでいるねと知っているのですが、旅行に興味が無い方というのは、せつかく地元のゲートウェイとして高松空港がある中で、それを知らないまま終わっています。ただ、知るとそこから交流だったり、ビジネスのチャンスだったり、直行便が飛んでいるから、どこに工場を作ろう、店舗を作ろうと、

公共交通機関の活躍だけではなく新しい旅行以外でのポテンシャルを色々と空港は秘めていると考えています。せっかく地元にある財産を、飛んでいるところ、あるいは台湾から乗り継いで行けるところって実は色々あるのです。高松の高校さんでもオーストラリアに語学研修に行くのに、関空から直行便で行かなくて、高松から台湾経由で行っていただいている高校とかもあります。そういうのをみんなは知らないですよ。高松空港って台湾は行けるけど、オーストラリア行けないね、ウィーン行けないねという声もありますが、実は我々チャイナエアラインで行けたりするのです。なので、そういうのを知ってもらう意味でも、そこに就航している地域の催しだったり、食べ物だったりというのを一同に集めて、みんなが、高松空港がゲートウェイで、交流のきっかけになるということを知ってもらおう。という意味での祭りが出来かなという意味で、考えさせていただきました。予算の部分に関しては、ちょっと協賛方式と市への予算提言も含めて、私は思っているが、ちょっとBしか書いてなかったので申し訳なかったが、AとBということで、考えていきます。

【委員】

私が考えたアイデアは3つあります。まず34番「さぬきノスタルジー」というので、高松市でも私が知っている限り、庄屋さん後の有形文化財って結構あると思うんです。うちの近所の庄屋さんなんかは、とても敷地が広いのに、とってもすごいきれいなのに、ガイドさんでの案内とかもないし、中にも入れなくて、ただただもったいないなと思っています。とにかく中が見たいなと個人的に思ったので、そういうところを会場にして、敷地内がせっかく和風なので、当時の風景を太秦映画村のような感じで、ロケ地のような感じにして、そこでかがり手まりとか組手細工とか、伝統文化のワークショップとか、ご当地の野菜のマルシェをしたりとかしてはどうかと考えました。あと私も獅子が気になっていて、獅子や太鼓などをステージでできたらいいなと思って考えました。マルシェをして売上の一部を有形文化財の修繕費とかにあてると、地域貢献にもなるし、歴史的な重要なものも、残っていくし、交流が出来るのではないかと思い、提案しました。

35番の「さぬチューバー」というのは、子どもがなりたい職業の上位がユーチューバーなので、子どもたちをメインとして、大人たちは香川の偉人、那須与一とか、菊池寛とかのコスプレをして子どもたちと一緒にユーチューブで観光地とか街歩きをして、そういう動画作って、子どもたちはユーチューブの作り方を実際に体験して、結構大変なのだなとか、そういったことを体験してもらって、香川のPRもできていいのではないかと思って、考えました。

36番の「高松ヒストリーピン」というのは、街歩きのガイドをしていて思うこととして、昔の写真ってなかなか手に入らなくて、でも昔から地元に住んでいる方は結構持っていて、それを見せてほしいといっても見せてくれるかどうかは、中々持っている人がわからないので、聞けないので、コミセンとかそういったところで集まって、模造紙とかで昔の地域の写真を持ち寄って、街について話し合うワークショップが出来ればいいなと思いました。Webサイト等で、連動して地域のことが知りたい人が誰でも見られるようにしたら、いいなと思いました。これはたぶん場所代と模造紙、紙代ぐらいの費用なので、参加費は取らないと。予算が一番安くできると思います。

【委員】

私のほうからは2案出させていただいています。一つ目が「高松を障がい者スポーツのメッカに！」というところなのですが、ザクツとしたところで申し訳ないのですが、前回のU40でマップを作るというところまでやらせていただいて、そこから終わりということではなく、まだパラリンピックの台湾の合宿地にもなっていて、たぶんここにいる皆さん全員が思っていると思うのですが、
「オリンピックって東京だから、オリンピックを見に東京に来て、本当に、高松に観光来るの？」みたいな所が、あると思うんです。今オリンピック、東京とか行くと本当に駅広告とか交通広告がいっぱいあります。あとは、ラグビーワールドカップもあるのですが、残念ながら中四国は一つも会場がないという。ラグビーワールドカップは九州と大阪とかにしか会場がなく、全然関われないみたいな所が、あるのです。台湾のパラの誘致のところで、観光交流課の方たちもスポーツ振興課の方たちもすごく頑張っているところだと思うのですが、ここでホストタウンについて、かいつまんで言うと、ホストタウンに来たことで町の人と交流する、文化の交流をするということです。私も先ほど議題(1)の資料を見ていて、ぞっとしたのですが、関係課の多さはすごいですね。前回のパラの時も、障がい福祉課とスポーツ振興課とユニバーサルデザイン推進室と、私もなぜか一緒にまたにかけてしまって、大変な中やっていた。そこがなぜ関わっているかということ、文化だったり、そういったところとの交流があるからです。共生ホストタウンというのは、増えてくることもあるのですが、実は高松市とあと数個しかない。なので、その共生ホストタウンというところに入っているということはどういうことかということ、障がいのある人もない人も共に暮らしていくということです。ともにハードルを越えて、共生していくまちであるということところろから名づけられていて、実はやることいっぱいあるんです。あとは、もう一回パラの大会は来るので、今回で終わりではなく、引き続きスポーツ振興課さんが頑張っていて、引き継いでいっています。レクザムフィールドも、元々、障がい者のスポーツのために、作られたところもあって、すごくバリアフリーで使いやすい会場になっていること知っていた人は、どれぐらい居ますか。この会場でもこのぐらいなんです。そのために作ったので、これは使わないと、もったいないので、やっぱりもっと参加者を呼んでいかないといけないです。今回地図を使って何が良かったかということ、私たちメンバーもそうですが、スポーツチームのメンバーが街に出て、ヒヤリングをしたりだとか、こういった人たちが来ますと、説明をさせていただいたりしたことで、私たち自身もまちを知れたりだとか、「そういった人たちが来るのだったら、うちの店はバリアフリーじゃないんだ」というところもあって、そこからもうちょっと広げて、積み重ねて、その受け入れる気分というか気持ちを助成させていきたいなと考えています。そこは、先ほどお話した、海外の方や観光客の方もそうなのですが、どんな人にとっても居心地がいいということは、共生ホストタウンに繋がるのです。バリアフリーだとお年寄りもそうですし、子供だってそうだと思うのです。そこに繋がってくると思うので、さっき「高松を障がい者スポーツのメッカに！」というところはあったが、やっぱりソフトの部分強くしていかないといけないので、他の人の案を全部かきとっていっちゃう感じなのですが、そういうところで「スポーツのメッカに」という思いを持っています。台湾

の方たちがくるというところで、ハード面では出来ることが限られるので、市民レベルの接点とか、その地図で助成をした気持ちのその先というところを、受け入れ態勢を作っていきたいなというところがあります。

2つ目、バリアフリーマップをBmapというのですが、ちょっとこれは地図作りましたよと、全体のところでも一回お話をさせていただいたのですが、今年度、地図を作りました。また、新しく政策課も作り、地図がいっぱい出来てしまっています。バリアフリーに関しては、やっぱり確かにそれにそった地図を作ることは大切ですし、今回のレクザムフィールドで地図を作ったのも、かなり特化してその人たちがありがたいと思うために作ったというのがあるのですけれども、たくさんできると、地図をいっぱいもって歩かないといけないようになります。そうしたら、一つにまとまっていたほうがいいよね。というところで、Bmapsというミライロさんというバリアフリーに特化した会社と日本財団がやっているBmapsというアプリがあります。それは口コミアプリで、色々なハードルがあるとかいった情報をどんどん入れていくのですが、やっぱり都心とか、大阪とか東京とかは情報量が多いのですが、香川はほとんどないので、私がコツコツやれと言われたら、ちょっと忙しくてできないのですが、それで、じゃあそこに集約してそれを見ればというところになっていけば、ある程度データが蓄積されて、それを見ればというところではできるのかなと思いました。そこに乗っかるためにどうしたらいいかという、今回私たちが地図作りでやったようにBmapsさんの場合は、検証プログラムをもっているのですが、「ブレーメンの調査隊」と言って、ブレーメンの音楽隊みたいな隊があって、「ブレーメンの調査隊」でイベントをすると、講習もしてくれて、町中に行く、ブレーメン隊がチェックするポイントを教えてくれるプログラムがあるので、そういうものを入れてもいいですし、ちょっとブレーメン隊を発見するのが楽しかったりするんで、そこも子どもを交えて、一緒にやれるとすごくいいのじゃないかなと思っていれさせていただきました。

最後に1個だけ、私、去年と一緒に市の職員の方のアイデアも来ると思っていたので事務局の方に問い合わせたのですが、今回私たちだけということで、ちょっと残念だなと思いました。

【委員】

去年、前期で活動してみた結果を踏まえてになるのですが、そもそもU40とは何だという紹介ページがないので、それを作りたいなというところが一番です。まとめていくにあたって、高松市の取組だとか、U40の先進性だとか、あとはここに集まっている人それぞれの活動自体が、ソフト的に財産だなと思ってるので、集めていくのであれば、U40の活動をちゃんと取材して伝えていくページで、かつ、第1期から含めたここに参加している人たちが、それぞれに今取り組んでいる活動とかをちゃんと外に発信して集約していくページが一つあると、いろんなところへのアピールはしやすいのかなと感じています。かつ、SNSと連動させていけば、それぞれ紹介された方々の活動に動きがあったときにSNSに乗せていけば、連動もすごくしやすくなってくるので、人の紹介かつU40全体の概要、あとU40がそれぞれどんなプロジェクトを動かしているかという内容です。あとはそれを構成している人が今どんな活動拠点でやっているか。あとは会社でやっているか。というところを3段階ぐらいのところまで、全部紹介

していくようなプラットホームのサイトが出来ていけばいいのかなと思っています。サイトを作るとなると結構重たいので、もし、活動をしているものを形にするのが難しければ、去年僕自身も「かかわるかがわ」というサイトを去年、プロジェクトベースによるかかわり方を作るというサイトを去年作っているので、もし掲載だけしていく、中々まとめは難しいが、掲載だけをしていならそこを使うのも手として考えつつあります。そういったU40全体、各プロジェクトの動き、個人個人の動きという3段階ぐらいを、集約していけるサイトを作っていけば、対外的な発信とかそれが集まって動かしていくことが出来る自体が、高松市に色々な魅力があり、活動があり、動きがあるということを伝えていき、大きな財産につなげていけるのではないかと提案させていただきました。

【委員】

まず20番からですが、「リレーマラソンギネス記録に挑戦！」ということで、今、鎌倉市が8時間で1485人バトンをつないだというギネス記録があるのですけれども、それを高松でできないかなと思いました。どうしてもリレーと聞くと42.195キロ走らないといけないのかというイメージが強いと思うのですが、これは本当に10メートルでも20メートルでもいいみたいです。それが分かったので、障がいのある人もない人もつないでいくということで、10メートル20メートルでも構わない中で、ギネス記録などの言葉の響きがすごくいいなと思ひまして、そうするとみんなが一つになって、日本記録でもなく、世界記録に挑戦するということがいいことなのかなという風に思ひます。そして、このイベントは、いわゆる一つのイベントではなくて、食であったり、工芸であったり、色んなものをごちゃ混ぜにしたお祭りにして、そして、さらには屋島の競技場ですることによって競技場に来たことがない人も、バリアフリーを肌で体感できるかなと思ひまして、こちらのアイデアを提案させていただきました。

2つ目の21番ですが、2020というところで機運が高まる中で、台湾もパラリンピックがホストタウンであったりだとか、パラの陸上連盟も合宿であったりだとか、色んなものがどんどん高松で決まりつつあるが、2020で終わらず、2020、2024と継続してやっていけるような継続的なものが出来ればいいのかなと思ひまして、こちらを提案させていただきました。

【委員】

「気持ち高まる」をテーマにして、情報発信チームを意識したのですがすけれども、私の分野でいうと、交流、外国人観光客受け入れに近いのかなと思ひます。37番は高松市の魅力ある人、U40のメンバーを含めて、そういった方を招いて高松市の魅力を学ぶ機会を作りたいなと思ひています。U40の方、またこういった集まりの中から出る情報とは非常に貴重なものだなと、旅行会社にいたときの記憶では思ひます。それをちゃんと残していく仕組み、また色んな方に知ってもらおう仕組みというのが出来たらいいなと考えました。単発のイベントや、ツアーだとその時々ファンは造成できますが、何回もその地域に通う根強いファンというのはなかなか作りづらいと思ひております。丸の内朝大学さんのように、座学とツアーがコラボレーションしたものをイメージしています。より地域を知れる形式で根強いファンを作れるような、講座、ツアーを設けたいなと思ひています。根強いファンですので、ひいては移住に繋がるような、そういった機

会が出来たらいいなと考えております。すみません。予算のところは、ざっくりとあてはめたので、修正が必要かなとは思っています。

次が、最後のページの38番です。ちょっと宣伝になるのですが、今回瀬戸芸が4回目を迎えるにあたって、オフィシャルツアーが出来まして、その企画や、ガイドの育成をお手伝いさせていただきました。ガイドの育成では、一般の方に募集をかけましたが、1か月ないぐらいで80人ほどの方が集まりました。大体8割ぐらいの方がTOEIC900点越えなど、非常に言語能力も高く、また80人のうち25%、約4分の1の方は海外・県外から、わざわざこの瀬戸芸のガイドがしたいということで来ていただきました。また瀬戸芸のオフィシャルツアー以外にカスタマイズツアーと言って、オーダーメイド型のツアーの企画も担当しております。遠方から来る方、国内もそうですけれども海外の方で特に欧州の方は、県外、瀬戸内のエリア全体、中四国を組み合わせます。あるいは東京から高松にインして、高松アウトではなくて、岡山へ行くなど、移動にも時間を要する長期型の滞在が多いのです。高松市に関して非常に魅力をたくさん持つ中で、それを適切に伝えられる人というのが、私が知らないだけかも知れないのですけれども、まだまだ少ないなと思っています。

広域のエリアでアテンドをするというのは何かしらできるのですが、広域のエリアでそれぞれの地域が自分たちの魅力を伝えるガイドというところに特化した市はまだまだ少ないので、高松市がぜひ率先して、U40のメンバーを含めて、魅力を伝えられるインタープリターを育成することで、広域からの依頼のツアーに関して、ゲストの目的に合わせて、こういうガイドさん、こういう人がいますよと紹介ができるようになりたいと考えています。そこまで行けたらいいなと思って、ちょっとまとまってないのですけれども、インタープリターの育成として、言語対応も含めたそういった魅力を伝えられる人を育てる仕掛けをしたいなと思っています。

【委員】

全部で5つお持ちしております。主に私自身がインターネット関係に関わっていたりとか、留学経験があったりだとかそういった観点から、高松の子供たちにとって有益な提案として考えております。

まず、一つ目が「我が子がインターネット・タトゥーを入れられる前に！」という話なのですが、最近すごくツイッターやインスタグラムなどで、子どもが炎上される事態がすごくテレビでも取り上げられていると思います。やっぱり子どもたちがSNSをどうやって使ったらいいかという教育は、学校だけでは難しいことかなと思ひまして、しっかり民間の企業が動画や実際に講義を作ったりして、パッケージで販売していくみたいなことも、何かしら一つの入り口として、出来ればなというのが一つ目です。

もう一つが、「アウトバウンド観光教育」です。昨今、すごくインバウンドと言われていますが、日本人のパスポート取得率は実は2割を切っています。たしか19.5パーセントです。なので、日本に目を向ける前に、海外を知らないともそもそも比較もできないので、海外に興味を持ってもらったうえで、自分の国内や高松に興味を持ってもらうというのを考えました。僕も、生まれは神戸なのですが、改めて出てみて、地元の良さが分かったりしましたし、大学は香川大学だったのですけれども、そこから2年間休学してアメリカに行っていたという経験

があり、高松良いなと思って帰ってきたのが高松でした。外に一回出ていくという教育もやれば面白いかなと思いました。

次は、7番です。これは、ちょっとふざけではないのですけれどもこれぐらい面白いこともやってもいいのではないかということで、「大西市長とうどん屋さんで1万円使い切れるまで帰れま10」みたいな、すごく若者っぽい企画を考えさせていただきました。やっぱり市のイメージや、盆栽を含めて、特に活動をされているので、こういった新しい切り口ではないですが、そういう若者が見ているところでしっかり企画をやっていくということが大事なのではないかとということで提案させていただいています。

次は、8番です。「#実はスゴイかがわの地元企業たち」。就職の話とかも、すごく頻繁に大学生に相談されたりもするのですけれども、香川県ってすごい国内でも海外でもシェアトップクラスの企業やニッチ産業がいっぱいあるのですが、そういうものを知らない背景があるので、そういったことをまず知ってもらうような企画が出来ればなと考えています。

次は、9番ですね。「息子・娘には就職させたくない！市内ブラック企業特集」です。すごくふざけているようにみえるのですが、ブラック企業が淘汰されれば高松市もすごく働きやすい地域になるのではないかと考えました。その仮説をもとに、高松市の親たちが就職させたくないブラック企業を匿名で暴く特集みたいな企画をやって、そうすると「載られたらやばい」と、どんどん企業がホワイト化していくのではないかと、エンタメ×企業みたいな企画も考えさせていただきました。

【会長】

はい、ありがとうございます。今、一通りざっとみなさんそれぞれ発表いただきました。これから少し時間を取るのですけれども、今日来られていない方の意見も今一度見ていただきつつ、まず、今日出ている意見の中で、質問がある方は、ちょっとこの場でしていただきます。私は4番のアイデアに質問があるのですけれども、さっき言っていた楽器っていくらぐらいするのですか。

【委員】

楽器自体は100万円ぐらいのものなのですけれども、国内で持っておられる所蔵されている方がおられるので、例えば、寄贈みたいな形で、年間とかで置かしてもらおうというような形も取れるのではないかと考えて、提案させてもらっています。

【会長】

ありがとうございます。今、ここで何をするかというと、それぞれのアイデアを固めると同時に、皆さん気づいた方もいるかもしれないですが、これとこれのアイデアは一緒にやれそうだな、その辺りを精査して整理をする作業をしたいと考えています。なぜ、そういうことをしたいかというと、出来るだけ皆さんのアイデアを生かしたいなと思っていて、その角度を得るためには、くっつけたらいいものをくっつけたり、分離させたらいいものは分離したりしたいので、それでちょっと質問の時間を取りたいと思います。

【市役所U40】

質問の前にちょっとだけ感想をいいですか。私、実はシートを市役所いらないうのを知らなくて、書いてしまったのですけれども、22番のアイデアとすご一緒だったのですよ。それで、第3期をやっていて思ったのですけれども、U40についてまだ全然知られていないと思っています。今日挙げていただいたアイデアの中でも、子どもたちにU40の仕事だったり、生活ぶりを知ってもらうのが、U40のブランド力にもつながるし、発信することにもつながるし、それが出来るメンバーが揃っているというのが、すごく素敵だなと思っていますので、ぜひU40に標準を当てたものもやっていただきたいなと思います。

あと、気になったのが30番の空港の件ですが、これは空港でサマーパーティーをしたいということですか。

【委員】

イメージとしては例えば中央公園だったりサンポートだったり、ひとつのお祭りというかイベントという形でイメージをしています。

【会長】

今の空港祭りってあるじゃないですか。あれとは違う立て付けで、何か空港ではない場所も含めてやりたいということですか。

【委員】

そうですね。あれはもう、あくまでも、空港にみんな来てねというところがメインなのですが、私の意図というものは高松空港から出ている、国内もそうですが高松と繋がっている先のものを香川にいる人が少しでも知ることができる、体験することができるという位置づけなので、高松空港祭りとはちょっと違うかなと。

【副会長】

経由してどこに行けるのですか。

【委員】

たくさんあります。例えば、エアソウルさん。ソウル線が飛んでいます、グアムに行けたりします。コタキナバルにも行けます。チャイナエアラインだったら、アメリカ本土も、ニューヨークに行けますし、ヨーロッパだと、ウィーン、フランクフルト、イギリスも行けますし、あとカナダも行けます。結構乗り継ぎという観点から行くと、関西空港まで行くのに、こっちの人って3時間かけてバスに乗っていくのですけれども、高松から2時間半で台湾につきます。そこから台湾がハブになることを考えると、香川の人には意外と世界に行こうと思うと、自分たちの空港を使ったほうが有利だということを、まず知らないのですよね。そういったことを知ってもらうだけでも、香川県にある高松空港の価値が高まると思うのです。繰り返しにはなるのですが、空港は旅行だけではなく、そこから生まれる繋がりや、輸出入もそうです。チャイナエアラインは貨物もやっています。オリーブハマチを香港に運んだりもしていますし、野菜、イチゴ、讃岐産フルーツを東南アジアに運んだりもしています。なので、空港というのは旅行のス

タート地だけではないのです。色々ところからの産業だったり、農業だったり、交流だったり、スタート地点になるので、いかようにも空港というのは使えるポテンシャルがあるということをし少しでも知ってもらおう意味でのお祭りです。

【市役所U40】

私がまとめられるかなと思ったのが、1番の「観光大学」と、37番の「気持ち高まる高松人に会いに行こう」というのは、1番が高松の観光の受け入れを育成していくという目的だと思うのですが、37番の分だと、観光に絞っていないだけで、考えているところとしては、近いのかなと感じたところが一つです。

まとめるといふ別の観点で、イベントのアイデアがいくつかあったと思うのですが、場所こだわらないイベントというのは、まとめて出来るのではないかなと思いました。32番のワークショップというのと、逆に場所は定まっていなくて、30番のだと逆に高松空港ということがある意味前提になると思うので、それもまとめられるし、今、拳がっている場所というのと、高松空港とレクザムフィールドでしょうか。なので、レクザムフィールドでワークショップをするということもできるし、イベントごとにはもうちょっとまとめようがあるかなと思いました。

【会長】

市の方に聞きたいのですが、レクザムフィールドって使いやすいですか。借りやすいとか、イベントをしやすいとかという点でいうと規制がありそうな気がします。トラックはこうやって使わないといけないとかあるのでしょうか。

【委員】

一応、フィールド芝生内で音楽の演奏を見たことがあるので、おそらく大丈夫かなとは思いますが。ただ、獅子舞は、踊っているのですが。飲食は上の観客のところがあるので、問題ないかなと思います。

【委員】

37番と22番はすごく試案性が高いのではないかと思います。

【市役所U40】

私が申しあげたものは1番と37番です。

【会長】

2番の言葉のバリアフリーと、23番は近いように感じました。

【副会長】

子どもユーチューバーの35番と大人ユーチューバーの7番はどうでしょうか。

【会長】

14番のこの「秋季例大祭」というのは、獅子舞を軸にするというコンセプトを外れなければ大丈夫でしょうか。

【委員】

出来たら、伝統的なというのを使うことです。要は、獅子舞は昔からやっているの、おじちゃんから子供までのコミュニケーションがとりやすい場が出来ると思っています。

【会長】

「獅子舞王国讃岐」との違いというのは。

【委員】

それを見たことがないのでなんとも言えないです。出来ることなら高松市中のお祭りを一回集めたいです。街中は街中でお神輿みたいなのがあると聞いたことがあります。

例えば、インバウンドとかを考えたときに、やっぱり海外の人は日本の祭りを見たいのではないかというのがありますし、この際、伝統的なお祭りなのですが、新しいことになりませんが、高知のよさこいもまだ70年たっていないぐらいです。だったら、ここで一度いろんな伝統として、獅子舞の部落がなくなってしまいう前に集めてしまって、一つの大きなお祭りにできたら、それはそれで観光資源にもなるし、伝統的な文化の継続にもなりますし、子どもたちと違う世代との交流も図れるのではないかというところがあります。

【会長】

それでいくと、創造都市のビジョンを見てみましょう。交流プロジェクトになるようです。そういう軸で行くと、それぞれの例えば、「うどん1万円食べ切ろう」はどこにあてはまるのか、といったことを一つずつ当てはめていく作業がある程度ここで、今日はまとめるやつはたくさんあるのですが、横と縦の両方に、それぞれ皆さんがそれぞれ出してくださっているアイデアの中で、子ども・工芸・交流というのを一応、割り振って下っています。それがたくさん丸がついているものもあれば、1つというものもある。たくさんついているから良いというわけではなくて、ここの軸は外せないの、そういう中で、引き続き話を続けていきたいなと思います。事務局にお聞きしたいのですが、形としては関係課をお願いをしていく部分と、産業振興課経由で第3期のように自分たちで立ち上げて要求するものの2本立てをイメージするほうがいいのでしょうか。それとも、これを全てそれぞれ関係課に持っていくほうがいいのかというの、事務局対応としてはどっちのほうが望ましいですか。

【事務局】

事務局としては、皆さんから頂く意見を、できるだけ生かしたいと考えております。今回、話し合っていて、精査したものを、話し合っていたものを一旦は担当課に全て投げようかとは思っています。その中で、話し合いの中で、その担当課としての予算としてあげていくのか、産業振興課の予算として、前回

のようにあげていくのかは、そこで考えたいと思っております、その中で、担当課とやる中で全てが事業化できるかと言ったら、そこは、お答えできないところではあるのですけれども。

【会長】

今、数でいうと、38アイデアを出していただいている、私がしようと思っっているのは、出来るだけ詰められるものは詰めたほうが、担当課さんもそうですし、産業振興課さんもそうなのですけれども、数が多いと煩雑になるし、いっぱい出してきているみたいになるので、出来るだけ集約をした形で出していくというほうがいいのかなと思っております、その作業をこれからの残りの時間でしていこうかなと思っておりますが、その形でいいですか。

【事務局】

さきほども頂いたように、今ある事業で市が関連するような事業を調べてきておりますので、もしそういうのがあれば、お答えできる状態にはしています。その中でも、今、事務局として考えているのは、担当課に投げたときに、もうあるからやらなくていいと、そんな単純な答えで返されたら困るので、そこをもう少し事業があるのであればそれを知っていただいて、そのアイデアを少し変えるというのであれば、変えていただいて、それで担当課に投げたいかと思っております。

【会長】

そうしたら、縦のやっているところの名前がついているのがありますよね。今、事務局からおっしゃっていただいたみたいに、実は市役所メンバーのほうで、御提案いただいたアイデアとやっているような事業とか、かぶるような事業をここで出ささせていただきます。そうすると、これが採用されるとか採用されないとかは別で、まったく引っかけないアイデアを、順不同で番号を言いますので、印をつけてもらいたいです。

まず、9番と18番、3番、11番、1番、6番、24番、30番、16番、7番、33番、38番。

市の事業ではないのだけれども、さきほどの14番でいうと、獅子舞大国讃岐は市の事業ではないです。市の事業ではないけれども、似ている奴があります。一応、22番の高松市の公式ホームページ「もっと高松」というのが既にあるのではないかということですが、たぶんこれはちょっと違う気がします。逆に言うと、今、言わなかったものは何かしら類似だったり、似ているものだったり、半分ぐらいかぶっているというのがある事業。もしくは高松市が主催ではないけれども、やっているという事業があるのです。だからと言って、これだけやるというわけではないのですけれども、一つ参考までに、お伝えしたまでです。

【委員】

前も同じような時に、同じようなグループで集まって意見交換をし多様な覚えがあります。確かグループワークは、近い人たちが集まって、話し合いをして、くっつけられないかという話し合いをした記憶があります。今回は時間がないですが、やりますか。

【会長】

そうですね。ただ、前は90個あったから、それをしました。だから前回の分けた数ぐらいが、今の感じなので、今のままできたら僕はいいなと思います。

【市役所U40】

地域おこし協力隊に着任したときに、あれやりたいこれやりたいと言って、大体ボツだったのと被っているなというのが2つぐらいあります。一つは23番の「指さし観光「案内」ガイド」です。セルフのうどん屋さんで、やり方がわからなくて困っている外国の方って結構いらっちゃって、セルフだったりフルサービスのお店だったり、色んなパターンがあるので、色んなパターンを作り、そのお店にあったパネルをカスタムして配布したらすごい使いやすいのじゃないかなと考えて終わりました。ボツになった理由は、公益性だとか、そういった観点からだったと思います。

10番の「小中高校生向け 観光ガイドチャレンジ」と24番の「「ここが変だよ讃岐人」リサーチプロジェクト」にちょっと重複するのですがけれども、こっちに帰ってきて、外国人観光客がとて増えているというのにすごくびっくりして、「YOUは何しに香川へ」というのを、そこにいる外国の方みんなに聞いて回りたと思ったことがあります。私は日本語しか喋れないので、じゃあ誰を立てるかと思ったときに、お金を払ってやってもらう訳にはいかないし、そうしたら、小中高生で英会話を習っていたりとか、英語科に通っているとか、そういった人を立てれば、教育の一環で協力してくれるのじゃないかと思って、考えていました。観光ガイドチャレンジに、なんで高松に来たのかというのを外国人に聞くことによって、自分たちの地域の魅力も再確認、再発見できるのではないかなと思います。

【市役所U40】

すごいざっくりとした、まとまっていない意見かもしれないのですがけれども、イベントがすごい色々出ていて、去年、たかまつ工芸ウィークを第3期U40と一緒にやって、やっぱり継続性を持たせることというのはすごい大事なことだと感じています。1回やって終わりではなくて、この時期にここに行けば、これをやっているよね、みたいなのが続くようにしていくことが大事なのかなと思います。そのためには、個々でやるというよりは、さっきの獅子舞祭りは秋、サマーフェスティバルは先ほどおっしゃっていたのですがけれども、夏もいいし秋もいいのではないかと考えています。ある程度時期を絞って一緒にできるイベントはまとめてPRできたほうがいいのかと、ざっくり思いました。

【委員】

今から精査していく中で、一つの指標にしてもいいかなと、みんなで話し合いたいことがありまして、第3期の時に例えば、工芸ウィークとか仕事PJとかあって、みんなであれだけの長い時間考えて生み出したもので、あとから見るとときに、工芸ウィークもあれだけ考えていいものが出来て、県外からもいろいろ来てくれたのですが、買って帰るのは県外の人ということでした。県内の人には知るか知らずか、自分たちの足元にある良さを知らないというギャップがあるよ

うに感じました。仕事PJも、こっちは実は担い手がいないと言っているのだけれども、東京の人は地方に行ったら仕事がないというギャップに着目されたものでした。

やっぱりどこかにそういうギャップがあるのではないかと考えています。インバウンドの旅行者もそうですが、国内インバウンドも海外インバウンドもこっちで見たいものと、我々がインバウンドして見てもらいたいものは、実は違います。ここいいよと言ったところが、インバウンドには受けなくて、えっあんな店がというところに、インバウンドが集まります。やっぱり、そういうところのギャップがあります。ただ、そのギャップがある中でも、そのギャップを最小限に埋められたもの。例えば、パラの「CAN MAP」とかは、外から来る人で、こんなに自分たちは受け入れられているのだと思わせるものと、自分たちがここはバリアフリーとか知ってほしいのがマッチしたのに関しては非常に効果的というか、生産性が非常に高いので、今後落とし込んでいく中で、いずれにしても我々が発信したいものと、それを知りたい人とのギャップというのが、あるものが極力縮められる事業が、やりがいのあるものに結び付くのかなと感じました。そういう意味では、そのギャップをいろいろあった中で、まず考えていって、ここを埋めるものがお互いに最終的にカギになるものに近いのだろうなと考えています。発信者と、ニーズ必要としている人たちというところを考えてはどうかなと思いました。

【会長】

素晴らしい。それでいくと、今聞きながら思ったのは、第3期で何のギャップを埋めたかということ、高松に住んでいる人のギャップではなくて、むしろ外側から来る人のギャップばかり埋めている気がします。マップにしてもそうですし、情報発信も海外の方だとか、来てくれた人たちが発信しやすいことを目的にしています。仕事PJも今言っていた通りです。工芸もまさにそうですが、工芸は意図せずそうなったもので、工芸は自分たちの工芸品が売れたらなと思って、中の人にも知ってもらいたい、あともっと言うと連携してほしいというのがありました。結果蓋を開けてみると、外からの人が即体験をしてくださって、そこの方が買って帰るという、高松の中の人ではなくて、外の人に対するギャップを埋めて、そこのニーズがすごくあったというのが、一つ成功体験です。そうすると、逆説的に言うと、僕らがお祭りしたいとお祭りをする、大コケする可能性がある。

【委員】

さっきの外の人と中の人の翻訳者がいないみたいな話もつながるところかなと思います。それは就職のところもそうだったりすると思いますが、イベント自体もそうだと思いますけれども、内の人魅力的に思うことはどんなことかと改めて考えると、外の人と同じことを考えないといけないなと思う。抽象的ですが何が出来るのかと考えたのですが、意外と出てこないですね。

【委員】

こんなことを言うと、自分の案をゴり押しするみたいですが、だったら、街角でヒアリングして直接聞くのが良いのではないのでしょうか。別に外国人や観光

客でなくてもよいのですが、どんどん出て行って直接聞くのも一つではないでしょうか。パラ陸上のマップも実際に現場に行ったことで、情報収集もできたのですけれども、広報効果もあったわけです。直に会うというのが、一つのきっかけとしていいような気がします。

【委員】

30番のインターナショナルフェスティバルですが、こっちにいながら航空路線が繋がっている方々の文化を知るといふのと獅子舞だったり文化のフェスティバルを一緒にしたらいいという話もそうだったんですが、それって結構ギャップを一気に埋められるのではないのでしょうか。お祭りというよりは、直接会う機会という点では、あとに残る効果があるのではないかなという気はしました。実際に触れないと印象には残らないですし、他人事を自分ごとに変える機会としてはイベントが面白いのかなと思いました。

【会長】

それでいうと、海外から高松に来たタイミングで、意図せずにお祭りをやっていたときは強烈に残るのでしょね。私はドイツに行ったときに、エアフルトという町で、ちょうど週末にワイン祭りがありました。エアフルトの思い出がそればかりです。一年で一番盛り上がるお祭りだといわれて、すごく田舎の町でしたが、そこだけすごい大賑わいで、教会の前ところに全員床で寝ているみたいな町でしたが。そういった意味では、今回、僕はアイデアを出していないが、第3期の時に出しましたが、その時に書いたのは「冬の祭りの復活」と書きました。色んな関係で、中央公園で冬の祭りがなくなって、ちょうど僕が帰ってきた年なので4年前ですかね。冬にもう祭りがなくなると高松の一年間の中で、子どもがメインで楽しめるお祭りって実は結構少なくて、高松冬の祭りって割と子供がメインのお祭りなのに、そのメインのお祭りがなくなったのかという思いがありました。だから祭りがしたいというのではないのですけれども、そういう意味でも、先ほど言われたように獅子舞もそうですし、いろんなお祭りがシュリンクしてくる地域にあって、創造都市として4つテーマがあるなかで、子どもとか工芸とか食とか交流とかある中で、ひとつお祭りというキーワードで何かできれば、u p T A Kのハッシュタグもあるし、前にあったものも使えるし、そういうものも考えてもいいかなと思っています。そういうものも一つ面白いかなとなんとなく思いました。

1個だけご紹介しますが、これは来年度もある事業で高松市協働企画提案事業というのがあります。箆にも棒にもかからなくというわけではないが、自分たちで補助金を取って、これは補助金扱いなのですかね。45万円が上限なのですが、これは出せば通るといふわけではないのですが、この金額の範囲の中で出来そうだとするものは出して、補助金を得るといふ作戦もあります。その時に使う団体としてu p T A Kという任意団体が既にあるので、そこを申請者にして45万までの補助金で、何かこういう事業をやりたい、イベントをやりたいなということも可能です。だから例えば、今回、関係課には漏れてしまったけれども、こういったことをやりたいということがあれば、それはこっちの中で行っていただくことも可能です。これも当然タイミングがあり、締め切りもあるが、出来るということをお伝えしておきます。

前回、90個だとバサバサ切ったが、今回38個だと逆に切りづらい。なので、切るとか切らないではなく、最終的には一番最後に、今日時間が足りなくなってくると、事務局と正副会長にある程度一任してもらおう場合も出てくると思います。これからもう一つやりたいのが、自分たちの中で、くっつけられるやつと、関連事業なしというところで行くと、番号で言うと1番・7番・22番、紐づいて37番とか35番とかありますが、これは機械的にざっくり言っています。要は、関連するような事業もなく、U40が本当に新規の中で出しているアイデアとなると、新規性という部分で行くところの辺がひっかかります。13個の新規事業がある中で、被るような事業が出てくる。これを絶対に押すというわけではないですけども、やりたいかやりたくないかでいうとみんなやりたくなるわけです。

【委員】

確かに、数は前回に比べて絞れている状況なので難しい。ただ、今、会長がやっているアプローチでいいとは思っていますが、似ているものをくっつけていく作業をしつつ、似ているものをくっつけ、かつ市として必要であるという理由をあげていけるものに関しては、それをちゃんとピックアップしていくのはどうでしょうか。だからみなさんにご覧いただいて、これとこれは足せる、こういう組み合わせの仕方は面白いのではないかという、コラボレーションのアイデアを出していただいて、あとはさっきの冒頭のところで、高松市さんからビジョンの説明があったので、ビジョンの中から特出しして、これをやったほうがいいのではないかというところの意見を足していくという作業をしていけば、ある程度、これが半分ぐらいまでまとまってくると、あとは事務局に一任してもいけるという感じがしているがいかがでしょうか。

私自身の話でいうと、私のアイデアは足せるものが多いとっていて、要素的に言うと、1番のフェイスブッククラウドみたいなのも、じゃあその取材シーンを全部アーカイブしていきましようというのも、使えるかなと思っているし、その取材自体をイベント化しても良いと思っています。全然それを前もってイベント化する必要もなく、仕事みたいな感じで聞きに来たゲストの意見もはめられるし、足せるものはいつくかはあるので、情報系のものは何か目的をもって足してしまってもいいのかなという感じはしています。

【会長】

それとあわせてなんですけど、ちょっと聞きたい、事務局にもお伺いしたいと思っているのですが。例えば、これ9番とか。ある特定の企業だけを取り上げるというのは市の事業として難しいのでしょうか。そぐわないという意味ではなくて、市として出来る、出来ないという、立て付け上できないものが存在する中で見ていくと9番は難しいのかなと思います。前回の第3期の時も特定の、例えば、伝統工芸を守っていくということで全部、盆栽から何から全部含めることで成立するということは、出来ると思っていますけれども。割とこれはネガティブワークというか、そこはダメとか、これは発信するとずっと残ってしまうので、こういうのは出来ないという認識でよろしいでしょうか。

【事務局】

事務局で意思統一が出来ている訳ではないのですけれども、私が見てみて、引っかかったところは、何点かありますので、言わせていただけたらと思います。一つ目が7番ですね。特定のうどん屋さんをどうやって選ぶのか、ここを選んだという理由付けが欲しいかなと思います。それと9番の所謂ブラック企業ですけれども、それも特定の企業をというのは市としてはできませんので、市の事業としてはどうなのかなと思っています。また、匿名と書いているのですけれども、市で匿名では出来ないというところが引っかかっています。あと26番なのですけれども、幼稚園ママを応援するという気持ちはとても分かるのですけれども、市としてどっちの生き方がいいかというのを、お勧めするというのは中々難しいので、おっしゃっている趣旨はよく分かるのですけれども、どっちもいいけど、こっちの生き方も楽しいよという意味でとっていただけるのであれば、それでいいかなと思っています。ただ、現状、働き時間もゆるくなってきて、働いている方が多い現状で、子育てするほうがいいよという言い方はちょっと難しいと考えております。

【会長】

8番というのは大丈夫ですか。すごいというのと、プラスで取り上げる特定の企業というのはありなのでしょうか。

【事務局】

どういう部分ですごいかということが説明できれば、いいのかなという気がします。選び方というのはしっかり説明が出来ないとちょっと難しいかなという気はしています。

【委員】

こういう意見もあるよというので、聞いていただきたいです。今、私共は高松市の観光課さんと外国人向けのインバウンドサイトをやっているのですけれども、まさに同じ議論があって、特定の企業を選ばないといけない、特定のお店を選ばないといけないという記事がありまして、例えば、人気のうどん屋4選みたいなものをするときにやっています。その時に、誰が選んだかという基準を市ではなくて、選定委員会を作りその選定委員会が選びましたということで、許可を貰い、市の公式サイトに出しているというところがあります。選び方として例えばupTAKが選びましたとか、誰がこれを選んだかを明確にすれば、そんなにこの部分はクリアできる方法もあるのではないかと思います。

【事務局】

前回のように、upTAKでやる事業と考えたら特定のお店等は選べるかなと思います。市の担当課がやる事業となったときは、ちょっと厳しいところもあると思われれます。

【会長】

例えば先ほどの26番のアイデアで、そのままその他でつけていこうといったときは、市の子ども支援課系ではなくて、upTAKが主催という部分であれば問題はないということですよ。普通の子育て広場さんがやるイメージと変わら

ないということでもよろしいですか。

【事務局】

そのイベントに対して市が補助を出すという話があれば、そのとおりです。

【会長】

その場合だと、うどん屋さんも選べるということで、その立て付けでいいですか。

【事務局】

「CAN MAP」で、特定のお店を選んでいるので、それはできます。

【会長】

例えば、くっつけられるやつをくっつけて、みなさんのアイデアの部分でちょっとくっつけたものに肉付けができるものはおそらく4つぐらいなので、それでも33個とか34個になると思われます。担当課に聞けないやつもあるので、そうすると28個とか29個ぐらいになるのですけれども、それで一回ブラッシュアップして聞いてもらう数としては適正でしょうか。もっと減らしたほうがいいであれば、もうちょっとくっつけられるやつは出てくるのではないかという気はしていますが、被るものは当然あるので難しいですね。どのぐらいの数がいいのか、課にもよりますけれども、その辺何かありますか。

【事務局】

ちょっと感覚的にはなるのですけれども、数が多ければ多いほど時間がかかるのかなという印象はあります。30個以下ぐらいであれば、各々、色んな課に分かれると思いますので、感覚的にはそれぐらいだと思います。

【会長】

じゃあ、あと後3分、4分です。出来るだけ皆さんのアイデアを生かしながら、アイデア同士をくっつけたり、皆さんの意見を聞きつつ、ちょっとここと、そこで相談をして、1回あたりを各担当課に聞いてもらって、次に本格的に予算要求となったときには、第3期と同様に、かなり精査した内容のものを市役所メンバーも含めて、作るという作業が入るのですけれども、その感じでもよろしいでしょうか。そのときは、誰かがプロジェクトリーダーになり、まとめていくという流れになります。当然、サポートはするのですけれども、前回、第3期でやっているの、リーダーというのは、前回の3人が「新时期では、絶対にプロジェクトリーダーはやりません」ということを、ずっと言い続けているぐらい、大変なものです。楽しいけれども、やっぱり大変な部分もあり、そういう作業にいく事業になります。

ただその提案をすれば通るかということ、それも通らない可能性もあるのですけれども、今からブラッシュアップしたものを担当課に投げつつ、その反応を見て、自分たちで立て付けをやっていくという方向に移行する感じで大丈夫でしょうか。この時点で、こっちでやりたいというのがあれば言ってください。そうしたら、それはup TAKでも出してやればいいので、担当課に聞きながらでも、

自分たちで全部やりたいということであれば、既存の補助金等を活用しながらやってしまえばいいわけです。

【委員】

昨年度、まなびCANで講座募集をしていたので、それに応募をしました。そんなに高額ではないのですけれども、補助が出て、場所を貸してくれます。片原町のところを貸してもらえるので、大学とか講座系の人で、もし今年中にスタートしたいのであれば、公募に応募すると、11月から3月までの利用が可能です。ただそれには、どんなことをやりたくて、というプレゼンが必要になります。

【市役所U40】

1つだけ情報提供させていただくと、観光コンベンションビューローというところが、サンポート高松で行うイベントについては最大40万円というのがあります。ただ、2月頭から2月末が、今日が締め切りにはなっています。

ただ、年に1回あり、約束はできないですけれども、来年度もあれば、今年中に企画して来年の2月に出して、2020年の年に、実施するということは、スケジュール的にも無理ではないと思います。

【会長】

それは、来年にはなりますが、できますよね。そういう弾があるということは大事です。極端な話をいいますけれども任意団体があるので、日本の財団のこういう補助金をとって高松市内でこういったことをやるというのは全然あります。そのための書類などを一緒に作る用意はあるので、そういうことも視野に入れてもらっていいです。創造都市推進懇談会ではないのですけれども、でもそれでやっていくというのはできなくはないです。

【副会長】

今回、一部の市役所の方と事前にちょっと打ち合わせをさせていただいて、私の意見が、バランスが取れているのかなどをお伺いさせていただいたのですけれども、今の案というのは予算を取るための案ではあるのですけれども、せっかくこういったメンバーが集まって、時間を投資してやるのであれば、今すぐにも出来ることはやっていけたほうがいいのではないかなと思っています。そういう視点は非常にモチベーションにもつながりますし、熱量があるうちにやらないといけないと思うので、先ほど会長がおっしゃったようにいろんな手段を考えて、やっていくというのは非常にわくわくするなと感じておりました。

【市役所U40】

私は都市交流室というところに所属しており、ちょうど台湾との交流に今、力を入れているところでして、ホストタウンにもなりましたので、来年度もパラリンピアを呼んできて、招へいするという事業も、都市交流が交渉しています。ぜひ2020年に向けて、台湾とも交流とか、オリパラの機運醸成というのをU40と一緒に出来たらなと今思っております。

【会長】

そういった、U40と市が何かやりたいとなった時には、産業振興課さんに1回話を振っていただければと思います。

【市役所U40】

私は、交通政策課で、鉄道・バス関係の仕事に携わってしまして、空港や飛行機の方はあまり詳しくないのですが、高松空港が海外のハブ空港ともつながっていて、そこからほかの国へ行くということも可能です。現在は、高松から海外へ行くと思うと、大阪や東京を経由して海外へ行く方が多いと思いますが、委員の方が言われたように、高松空港からも海外のハブ空港を経由していろんなところに行くことができるというのは発信していきたいものの一つであると考えています。個人的な感想にはなるのですが、今、話を聞いている中で、すごく熱量が高く、積極的なことを議論していると感じてしまして、自分もいろんな意見を言って、色々と一緒にやっていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

【市役所U40】

私が環境総務課で担当させていただいているのは、高松市の環境基本計画と言ひまして、高松市全体の環境に関する計画の策定とかをやっています。あとは課の予算決算と、あと局内の決算のとりまとめもやっています。そういった予算に関わることが非常に多いのですが、今日も第2回に参加させていただきまして、アイデアシートの中に予算の項目があり、選択でABCあったと思います。今後似たようなアイデアテーマは集約されていくということなのですが、集約した結果、予算がA、市の予算確保の提言のみとなった場合、予算の確保が、今財源が大変厳しくなっておりますので、なかなか難しいのではないかと考えています。

それと、11番の「新規就農者が6次化に取り組みやすいように香南アグリームの設備を有効活用する。」というテーマがあったと思うのですが、私は3年前に農林水産課に1年間在籍しておりまして、中々6次化というのに、市の職員もどうやって取り組んだらいいのかがよく分かっていないところがありました。そういったことを担当ではなかったのですが聞いておりましたので、市が行っていないものに11番はなると思うが、市の職員もどうやって6次化に取り組んでいったらいいのか、どう推進するのか、どうやって行けばいいのか悩んでいる部分もたくさんあると思いますので、そういったところも、今後検討するにあたって、各課にお伺いを立てたときに、逆に市の方からそういった悩みが出てきて、U40の考えや今後の方法も逆に力添えしていければいいのではないかと考えていました。

【市役所U40】

今回の会議に先立って、産業振興課から一度、34番の「さぬきノスタルジー」の案について、文化財課に御提案ということで、お伺ひがありました。おっしゃっている登録有形文化財の旧庄屋のおうちというのは、高松に知られていないけど結構あります。指定のものもあれば、登録文化財のものもありますが、大体ほとんどが住宅ですので、個人さんが持たれているところが多くて、公開が積極的なところもあれば、ちょっと防犯上の観点とか諸々のご事情で中々人に来てほしくないといっている方もいるので、市として、文化財だから公開してくださ

いと強要することは中々できないです。ただ文化財の保護法も改正になったので、文化財の公開も積極的にしていこうというお話も出てきているので、この案はすごくありがたいなと思っていました。そういった事例もあるので、出来るのであれば、私から産業振興課に提案したのは四国村さんとかであれば、指定の文化財とか国の文化財とかたくさんあるので、色々と御協力をしていただけるのではないかと考えています。今回のアイデアであれば、場所も広いのでそちらのほうに適した場所ではないのかと考えています。

そういうこともあるので、関係各課に先に一度聞かれるということだったので、その課に聞かれたら、課の方からこちらのほうがいいのではないかと、こういう案が実はこういうのは難しいなどあると思うので、一度市に投げていただいて、こうした方がいいのではないかと、より良い案も出てくるかと思うので、一度聞かれてから精査をされたほうがいいのかと思いました。

【会長】

みなさんありがとうございました。

第3期の方はよく知っているお話で、第1期か第2期の時に、ピクトグラムのお話があり、当時琴電の社長さんが委員としていらっしゃるときに、このU40の中で、外国の方が空港バスの乗り口がよくわからないというときに、あの飛行機のマークが入っていればいいのではないかと議論になったときがありました。さっそく、その社長さんが自分の会社でもあるので、ことごとく空港バスが止まる場所に、一番上のところに飛行機のマークがついています。そうすると、あそこには空港行のバスが停まるのだということが、誰が見ても分かるわけです。そういった風になっただけで、U40の実績の一つだという話になっています。なぜこのU40があるのかといういろいろな考えたときに、確かに創造都市推進ビジョンの中にあるこの4つの「こども」とか、「工芸」とか、「交流」とかある中で、いわゆる若い層の人たちの意見をどう生かすのかと考えていったときに、やっぱりより柔軟で、ちょっとぎりぎりアウトみたいなものもあるかもしれません。色んな技を、知恵を出し合って、お金がなくても知恵を出していく、その中でどう予算を組み立てていくか、ということをして第3期の時は、そこで一生懸命頑張ったので、4つの事業があれば、前回の報告会に来ていただいたときのあの熱量を生み出しているのです。ぜひ今回できるだけ色んな課とU40の事業が「なんかすごいぞ」というのは、「なんとなく市の中でもやっている」というのが、ひとつ見えてきているところがあります。例えばこの第3期で交流して下さったスポーツ振興課の皆さんというのは、U40にかけてくださる思いがどんどん強くなっている部分があるようなので、やっぱりそういうところを生かしながら、面白く楽しく熱量をもって、後2年間過ごせたらと思います。

アイデアについては、一旦ちょっとお預かりはさせていただきます。あと、それぞれの担当課の反応を待つということもありますが、できるだけ早いレスポンスで、「こういう反応がありました、では次の手はどうしましょうか」と、事務局発信にはなると思うのですけれども、ぜひ御協力をいただきたいです。また、今日皆さん頂いた38のアイデアをもうちょっとこういう角度でいったら面白くなりそうだというのであれば、全くの新規以外でぜひ温めていただきたいです。全くの新規は困ります。このU40に関わることで、ぐっと持ち上げられるものがあるならば、ぜひその都度アイデアを頂ければと思います。

4 閉会

(事務局から事務連絡の後、閉会)